兵庫県明石市の
気候非常事態宣言と市民協働の取組み

丸 谷 さとこ

明石市議会議員
環境教育コーディネーター
NPO法人再生可能エネルギーあかし顧問
気候危機・自治体議員の会代表呼びかけ人

今日のアウトライン

1　自己紹介・明石市紹介

2　気候非常事態宣言の経緯と取り組み

3　行政と市民の協働の取り組み

1 自己紹介・明石市紹介

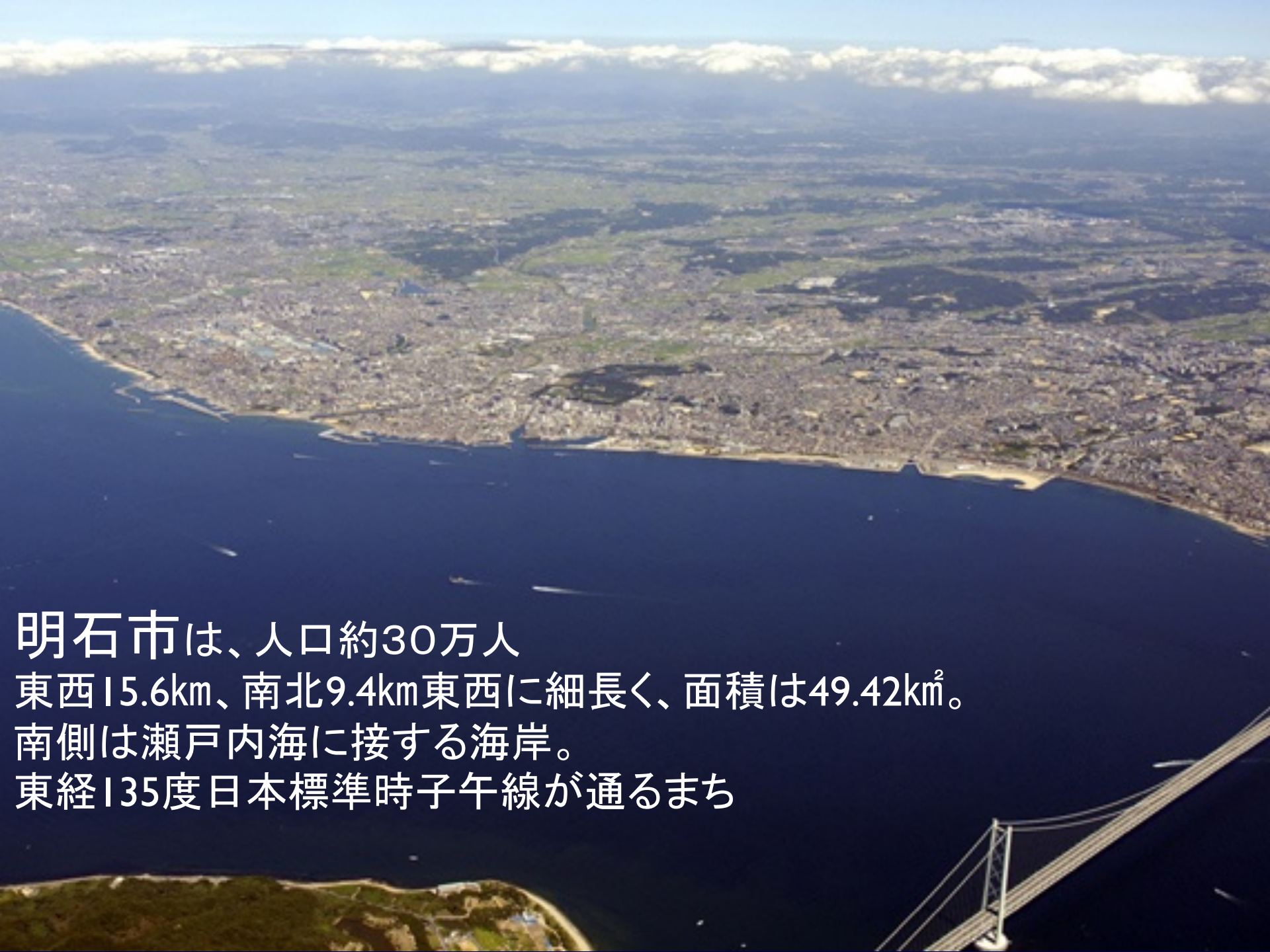
・小学3年生　ひょうご自然教室の会員になる
・中学1年生　美方自然教室でイヌワシの存在を知る
・高校1年生　ひょうご自然教室リーダー
・高校3年生　日本野鳥の会兵庫県支部役員

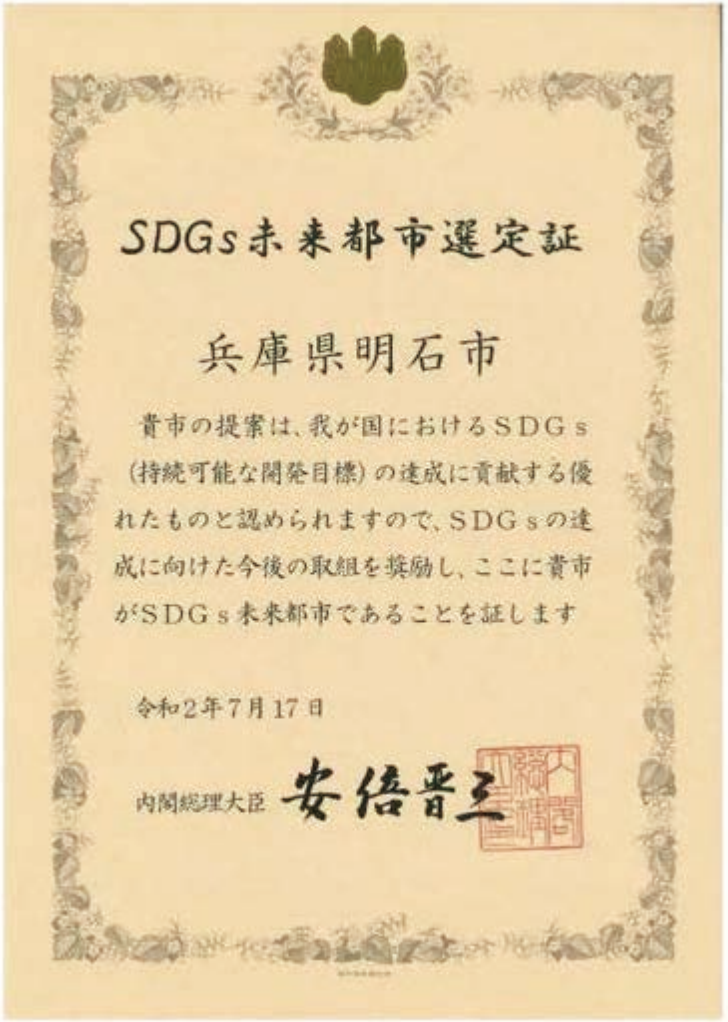
気がついたら、自然と人が共生するためにはどうしたらよいか、いつも考え、多くの人に自然の素晴らしさを知ってもらいたいと行動していた

・明石市江井島地域の水でつながる自然の中で子育て
・ＰＴＡ役員がきっかけでため池保全等、地域活動に関わる
・2004年　明石のはらくらぶ 設立 環境教育コーディネーターとして活動
・2004年　エコウイングあかし　　設立メンバーとして活動
・2009年　同志社大学大学院入学 研究と実践の両輪での活動
・2015年　自然と子どもが輝く持続可能な社会を作るツールとして、政治の世界に飛び込む。 明石市議会議員 2期目
・2019年　再生可能エネルギーあかし設立　設立メンバーとして活動
・2020年3月　博士学位取得（ソーシャル・イノベーション）

↓ぜひ、こちらをご覧ください。

https://www.youtube.com/watch?v=Z8wV3gN8dMs&feature=youtu.be&fbclid=IwAR0qCRGG7UjBrgrIDA4G1TUsa_twvSdPhaw80uLx8Lp54b1NyztDf8z7ow


明石市は、人口約30万人
東西15.6km、南北9.4km東西に細長く、面積は49.42km²。
南側は瀬戸内海に接する海岸。
東経135度日本標準時子午線が通るまち



SDGs未来都市選定証

兵庫県明石市

貴市の提案は、我が国におけるＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）の達成に貢献する優れたものと認められますので、ＳＤＧｓの達成に向けた今後の取組を奨励し、ここに貴市がＳＤＧｓ未来都市であることを証します

令和２年７月１７日

内閣総理大臣 安倍晋三

瀬戸内式気候のため、温暖で雨が少ない
平均日射量は、約4.1時間（日本平均3.84時間）

森林面積は約4%しかなく、
西部地域は、農地、ため池が多く
水の流れでつながる自然が形成されている

2020年10月　明石市大久保町に飛来したコウノトリ　　撮影：丸谷さとこ

２　気候非常事態宣言の経緯と取り組み

（明石市HPより）

- 地球温暖化を起因とする極端な気候変動により、気象災害が頻繁に発生するなど、その深刻さは脅威となってきており、国連IPCC(気候変動に関する政府間パネル)は、地球の平均気温上昇を1.5℃以内に抑えなければ悪影響の程度が格段に増すとして、2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロに抑える必要があるとする「1.5℃特別報告書」を公表しています。
- 昨年、開催された国連気候行動サミットにおいては、国連事務総長から2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにすることが呼びかけられるなど、直ちに行動を起こすことが求められています。また、同サミットにおいて、演説を行ったスウェーデンの環境活動家グレタ・トゥンベリさん（16歳）の言葉は世界に衝撃を与え、彼女の主張に賛同する世界各地の若者が行動を起こすなど、気候変動は世界的問題として注目視されています。
- 誰もが安全に安心して暮らし続けられる社会「SDGs未来安心都市」を目指す本市として、17のSDGs目標のひとつに掲げられる「気候変動に対する具体的な対策を」に取り組むため「気候非常事態宣言」を表明し、連携を広く呼びかけ、市民や事業者の理解、賛同を得て、課題を先送りすることなく、気候変動(地球温暖化)に対する取り組みの強化を図り、こどもたちが安心して未来に希望を持てるまちづくりを推進してまいりたいと考えています。
- 市民の皆さま、市内の事業者の皆さまをはじめ、各関係機関、団体に、すでに現実となっている気候非常事態、これから起こり得る可能性のある気候非常事態に関して認識を共有していただき、地球温暖化対策推進についての連携を賜りますことをお願い申し上げます。

明石市の気候非常事態宣言　宣言文

令和２年３月２３日　　明石市長　　泉　房穂

現在、世界各地で、気候変動による干ばつ、洪水、森林火災などの異常事態が頻繁に発生しています。日本でも、集中豪雨や大型台風、猛暑などの、50 年や 100 年に一度と言われるような気象現象が毎年のように発生し、大規模な災害へとつながっています。これらの異常事態は、温室効果ガスの増加に伴う長期的な地球温暖化の進行に伴い、増加しています。

国際社会は、2016 年に発効された「パリ協定」において、地球温暖化防止のための世界共通の目標を新たに定めました。その目標は、「世界全体の平均気温の上昇を、産業革命前と比べ 2℃未満に、できれば 1.5℃までに抑えること」であり、1.5℃までに抑えるためには、2050 年までに主な温室効果ガスである CO_2排出実質ゼロを達成する必要があります。

しかし、温室効果ガスの排出量は増加し続けており、世界の平均気温は産業革命前からすでに約1℃上昇しています。このまま平均気温の上昇が1.5℃を超えた場合、地球が温暖化の悪循環に陥り、気温上昇が加速する可能性が指摘されています。

2018 年には、CO_2排出量は約 331 億トンで過去最高を記録するなど、さらに温暖化を加速させる状況にあります。このままでは、将来、さらに多くの人々や自然が犠牲となるような気象災害の発生が懸念され、地球上で安心して安全な生活を送ることが困難になります。

全世界は、改めてこの危機的状況を認識し、「パリ協定」に掲げられた目標を達成するため、地球温暖化を緊急課題として位置づけ、その防止に向けて積極的に取り組む必要があります。

このような背景を受け、「ＳＤＧｓ未来安心都市・明石」を掲げる本市としては、未来に負の遺産を残すことなく、誰もが希望を持てる持続可能な社会の実現に向けて、ここに気候非常事態を宣言し、市民とともに社会全体で地球温暖化防止に取り組みます。

①地球温暖化に起因する気候変動の脅威や迫り来る危機を市民へ広く周知啓発します。
②温室効果ガス排出抑制に取り組み、2050 年までに CO_2排出量と吸収量の均衡をとる「実質ゼロ」を目指します。
③市民をはじめ行政機関や関係団体と連携し、ごみの減量・再資源化や省エネルギーの推進、再生可能エネルギーの利用拡大などを加速させるとともに、他の地方公共団体に「気候非常事態宣言」についての連携を広く呼びかけます。

Climate Emergency Declaration

Today, climate change is triggering frequent cases of weather anomalies throughout the globe, including drought, floods and forest fires. Japan is no exception to this - torrential rain, super typhoons, sweltering summers, and other weather phenomena that used to be reported once every 50 to 100 years impact the country almost every year, causing large-scale disasters. These anomalous occurrences grow in number as the planet warms up over the long term due to the increase in the emission of greenhouse gases.

In the Paris Agreement, which went into effect in 2016, the international community set a new worldwide goal for mitigating global warming, which reads, “holding the increase in the global average temperature to well below 2°C above pre-industrial levels and to pursue efforts to limit the temperature increase to 1.5°C above pre-industrial levels.” To successfully limit the temperature rise to 1.5°C, CO_2 emissions - one of the primary greenhouse gases - must reach net-zero by 2050.

Yet, greenhouse gas emissions keep increasing, with the result that the planet has been warmed by about 1°C since the pre-industrial era. Should this continue and the 1.5°C threshold is reached, it is said that Earth could be caught in a vicious cycle of warming, thus accelerating the temperature increase.

In 2018, CO_2 emissions hit a record high at approximately 33.1 billion tons, which only worsened global warming. If no drastic measures are taken, it is feared that we will continue to have weather disasters that will victimize many people and the environment, making it difficult for humans to live safely and peacefully on this planet.

In order to achieve the goals laid out in the Paris Agreement, the entire international community needs to renew its recognition of this critical situation and work aggressively to curb global warming by making the fight against climate change an imperative.

It is against this backdrop that Akashi City - SDGs Future Resilient City - hereby declares a climate emergency to take preventive steps against global warming hand in hand with its residents from all walks of life, with a view toward realizing a sustainable society where anyone can have hope, without passing negative legacies onto future generations.

Climate Emergency Declaration

1. We proactively publicize climate change stemming from global warming and the immediate dangers to our residents at large to inform them of relevant facts.
2. We make concerted efforts to control emissions of greenhouse gases to pursue “net zero” CO_2 emissions by making Akashi a carbon neutral city by 2050.
3. We promote waste reduction/recycling and energy conservation, prompt the use of renewable energy, and call upon other municipalities to join together under the “Climate Emergency Declaration,” in collaboration with residents, administrative organs, and concerned bodies.

気候非常事態宣言（兵庫県明石市）

現在、世界各地で、気候変動による干ばつ、洪水、森林火災などの異常事態が頻 繁に発生しています。日本でも、集中豪雨や大型台風、猛暑などの、50 年や 100 年 に一度と言われるような気象現象が毎年のように発生し、大規模な災害へとつながっています。これらの異常事態は、温室効果ガスの増加に伴う長期的な地球温暖化 の進行に伴い、増加しています。

国際社会は、2016 年に発効された「パリ協定」において、地球温暖化防止のため の世界共通の目標を新たに定めました。その目標は、「世界全体の平均気温の上昇を、 産業革命前と比べ 2°C未満に、できれば 1.5°Cまでに抑えること」であり、1.5°Cま でに抑えるためには、2050 年までに主な温室効果ガスである CO2排出実質ゼロを達 成する必要があります。

しかし、温室効果ガスの排出量は増加し続けており、世界の平均気温は産業革命 前からすでに約 1°C上昇しています。このまま平均気温の上昇が 1.5°Cを超えた場合、 地球が温暖化の悪循環に陥り、気温上昇が加速する可能性が指摘されています。

2018 年には、CO2排出量は約 331 億トンで過去最高を記録するなど、さらに温暖 化を加速させる状況にあります。このままでは、将来、さらに多くの人々や自然が 犠牲となるような気象災害の発生が懸念され、地球上で安心して安全な生活を送る ことが困難になります。

全世界は、改めてこの危機的状況を認識し、「パリ協定」に掲げられた目標を達成 するため、地球温暖化を緊急課題として位置づけ、その防止に向けて積極的に取り 組む必要があります。

このような背景を受け、「SDGs未来安心都市・明石」を掲げる本市としては、 未来に負の遺産を残すことなく、誰もが希望を持てる持続可能な社会の実現に向け て、ここに気候非常事態を宣言し、市民とともに社会全体で地球温暖化防止に取り組みます。

1 地球温暖化に起因する気候変動の脅威や迫り来る危機を市民へ広く周知啓発します。

2 温室効果ガス排出抑制に取り組み、2050年までにCO2排出量と吸収量の均衡をとる「実質ゼロ」を目指します。

3 市民をはじめ行政機関や関係団体と連携し、ごみの減量・再資源化や省エネルギーの推進、再生可能エネルギーの利用拡大などを加速させるとともに、他の地方公共団体に[気候非常事態宣言」についての連携を広く呼びかけます。

令和2年3月23日 明石市長 泉 房穂

宣言の経緯（行政の動き）

・2019年10月4日　市長報告（環境室環境総務課）

（内容）長崎県壱岐市で表明した気候非常事態宣言の経緯について

・2019年11月6日　市長協議（環境室環境総務課）

（内容）気候非常事態宣言の表明にあたって、環境の視点を重視した取り組みの方向性、宣言内容（案）、3月議会議決事項とするスケジュール等

・2019年11月21日　市長協議（環境室環境総務課）

（内容）気候変動に適応するための対策強化として気候非常事態宣言の表明を具体的に検討

・2019年12月11日　生活文化常任委員会で報告

・2020年1月1日～31日　パブリックコメント実施（１２名・８９件）

・2020年3月議会　議案第３１号「気候非常事態宣言のこと」

3月 4日　生活文化常任委員会で審議

3月23日　本会議

全員賛成で可決　兵庫県内初の宣言表明

宣言の経緯（行政＋市民の動き）

・2016年　エコウイングあかし（明石市とのパートナーシップ団体）、脱原発明石・たこの会のメンバーが中心になり、明石地産地消エネルギーセミナー（全5回開催）

・セミナー終了後「エネルギー地産地消あかし地域協議会」（代表：佐々木卓郎さん）立ち上げ。

2019年2月　NPO法人再生可能エネルギーあかし設立

＊2月9日、ドイツのソーラーコンプレックス社ミュラー氏を招き、記念講演会「市民による再生可能エネルギー」開催

宣言の経緯（行政＋市民の動き）

・2019年　9月28日　西明石タウンミーティング（市長懇談会）

項目	ご意見	市長等の回答
環境	・9月23日の国連気候行動サミットでのグレタ・トゥンベリさんの発言に対してどう感じられたか。また、明石の方向性を伺いたい。	・長崎県壱岐市が自治体で初めて「気候非常事態宣言」を行った。明石市でも検討したい。 ・いくら良い施策をしても地球が滅びては意味がないので、グレタ・トゥンベリさんが、「未来がないのに勉強しても意味がない。」として、金曜日に学校に行かず、抗議をされた気持ちは分かる。 ・明石市としても市議会議員と相談しながら気候変動の問題に取り組みたい。
	・避難所に発電機やモバイルバッテリーの充電器を設置したり、太陽光発電の電気を公共施設に利用したり、防災に強いまちにしてほしい。	・明石市は、日照時間が長いので、太陽光発電が向いている地域だと思っている。ただ、市の面積が狭いので、太陽光発電だけで明石市の電力が賄えるほどにはならない。 ・エネルギーの地産地消に対して問題意識を持ちながら色々な方法を探っていきたい。

・2019年10月27日　明石タウンミーティング（市長懇談会）

環境	・日本の二酸化炭素削減目標が低すぎる。もっと高めなくて良いのか。	・次年度、SDGs をより一層推進していく中で、気候変動を含む環境施策は重点化を図りたい。市議会と相談しながら、明石市としてできることを始めたい。
	・地球温暖化対策として、化石燃料から再生可能エネルギーへの転換を進めてほしい。市のメガソーラー発電や住宅用太陽光発電を活用して、再生可能エネルギーの地産地消ができれば、地域経済が活性化し、大手電力会社の供給する電力に頼らない仕組みができる。	・明石市は全国的にみて日照時間が長いので、太陽光発電が向いているが、市の面積が狭いので、大規模な太陽光パネルの設置は難しい。 ・公共施設の整備にあわせて再生可能エネルギーの導入を検討したい。

宣言の経緯（行政＋市民の動き＋議会の動き）

・2019年10月4日　市長報告（環境室環境総務課）

（内容）長崎県壱岐市で表明した気候非常事態宣言の経緯について

・2019年10月28日　会派予算要望（未来明石・丸谷所属）

（内容）気候非常事態宣言を表明し、地球温暖化・再生可能エネルギー対策に特化した担当課の設置をすること。さらには、再生可能エネルギーの地産地消をめざす条例を策定して、取り組みを加速させること。

・2019年11月6日　市長協議（環境室環境総務課）

（内容）気候非常事態宣言の表明にあたって、環境の視点を重視した取り組みの方向性、宣言内容（案）、3月議会議決事項とするスケジュール等

・2019年11月21日　市長協議（環境室環境総務課）

（内容）気候変動に適応するための対策強化として気候非常事態宣言の表明を具体的に検討

宣言の経緯（行政＋市民の動き＋議会の動き）

・2019年11月28日　一市民から「気候事態宣言に関する決議を求める請願」

（内容）行政が、宣言の準備をしていた中での突然の請願だった

・2019年12月5日　本会議一般質問・気候非常事態宣言の表明について

（質問要旨・丸谷）SDGs未来安心都市を目指す本市において、SDGsの目標13「気候変動に具体的な対策を」を推進するために、「気候非常事態宣言」を表明し、地球温暖化・再生可能エネルギー対策に積極的に取り組むべき。

（答弁要旨・環境部長）気候変動問題については、SDGs未来安心都市明石を目指す本市にとって、SDGsの目標13の「気候変動に具体的な対策を」の推進にも関わる重要な問題であると認識している。子どもたちが安心して未来に希望を持てるまちづくりを推進するため、宣言を含む気候変動対策の推進に関する方針について、現在検討を進めている。

・2019年12月6日　市長協議（環境室環境総務課）

（内容）気候非常事態宣言の表明にあたって、環境の視点を重視した取り組みの方向性、宣言内容（案）、3月議会議決事項とするスケジュール等

宣言の経緯（行政＋市民の動き＋議会の動き）

・2019年12月11日　生活文化常任委員会
環境室長から市が宣言を準備している報告
報告の後、同委員会で請願審査→全委員賛成で、採択

・2019年12月20日　本会議
議員提出議案第3号
「気候非常事態宣言に関する決議のこと」 全員賛成で可決

・2020年1月1日～31日　パブリックコメント実施（12名・89件）

・2020年3月議会
議案第31号「気候非常事態宣言のこと」
3月 4日　生活文化常任委員会で審議
3月23日　本会議　全員賛成で可決　宣言表明

気候非常事態宣言に関するその後の取り組み

・地域循環型共生圏構築の検討
・家庭用燃料電池及び蓄電池の普及促進を図るための助成等

↓

新型コロナウィルス感染症の状況を踏まえ、次年度以降に延期

・2020年6月15日　6月議会・本会議で、一般質問しました！

気候非常事態宣言後の具体的な取組について（丸谷）

（1）　本年度の取組を延期することについて

（要旨）新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、気候非常事態宣言に関する具体的な取組を次年度以降に延期するとしている。なぜ「非常事態」である取組を延期するのか、見解を問う。

（2）　地域循環共生圏構築の考え方について

（要旨）取組のスタートとしている地域循環共生圏構築において、最重要課題は「食料の自給」と「緑の回復」である。この課題に対してどのように取り組んでいくのか、市の認識と見解を問う。

3　行政と市民の協働の取り組み

～明石市環境基本計画パートナーシップ協議会（エコウイングあかし）～

2006年度「明石市環境基本計画」の見直し作業を市民・事業者・行政の三者協働で行うため、明石市の呼びかけに応え、見直し作業に参加し、議論の結果を13のリーディングプロジェクトなどにまとめた。

そして、明石市環境基本計画を推進していくために「明石市環境基本計画パートナーシップ協議会（エコウイングあかし）」を立ち上げた。

さまざまな立場や年代の人々が集い、さまざまな視点で、計画に掲げる施策をパートナーシップで実践していく、大切な役割を担っている。
現在は、第2次明石市環境基本計画の推進に取り組んでいる。

明石市環境基本計画推進
パートナーシップ協議会
エコウイングあかし

「エコウイング」とは…「エコ」は環境一般、「ウイング」は翼。
エコの風が大きく翼を広げ、明石に広がるイメージとともに、
東西に長い明石の地形も表している。
また、市民、事業者、行政の三者を
つなぎ、覆う翼を意味している。

エコウイングあかしHP　https://www.ecowing.net

おうち発電で啓発活動中！

～NPO法人再生可能エネルギーあかし～

地球を守ろう！明石どうぶつ仮装ピクニック＆パレード

～地球love明石～子育て世代のママや大学生のグループ

2020.3.20 AKASHI

アニマル仮装ピクニック
＆気候保護パレード

気候変動は今や【気候危機】
オーストラリア、アマゾンの森林火災、
多発する台風・ハリケーン、溶解する氷山、異常なまでの気温上昇。
これはただの自然災害？　いいえ、立派な人間による【人災】とも言えます。
わたしたちが変われば地球も変わる。
そんなアピールを楽しくパレードでしませんか？
みんなで一緒に作り上げましょう♪
人数が多ければ多いほど盛り上がること間違いない☆

ご静聴ありがとうございました